

3%)であり、後遺症は急性期に比べて男女とも約1/3に低下していた。両者とも男が高率を示し、性・年齢別にみると男女とも6か月未満の若年児と高年児が高く、1歳または2歳に窪みをもつゆるやかなU字型のカーブを示していた(図6)。

心障害(急性期)の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大10.31%、瘤1.84%、弁膜病変1.71%、巨大瘤0.44%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.02%であった。前回と比べて、拡大が減少し、巨大瘤が増加した。男女別にみると弁膜病変以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤、拡大、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。中でも巨大瘤は2歳以上が2歳未満に比べて約1.8倍の出現率であった。

心障害(後遺症)の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の拡大2.51%、瘤1.32%、弁膜病変0.47%、巨大瘤0.36%、狭窄0.07%、心筋梗塞0.01%であった。男女別にみると、弁膜病変および心筋梗塞以外は男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤のみ2歳以上に高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べて1.7倍以上であった(表5)。

11. 初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日

患者の初診日は第4病日が最も多く23.2%であり、第4病日までに受診した者は66.6%であった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第4病日までに受診した者は2歳未満の者では70.6%を占めていたが、2歳以上の者では62.5%であり、2歳未満の若年児が早く受診する傾向を示していた。

ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く36.0%であった。年齢別にみると、2歳未満が早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者の割合は2歳未満では69.0%、2歳以上では58.1%であった(表6)。

12. 退院時病日および初診から退院までの日数

患者の退院時病日は第13-15病日が最も多く23.4%であり、第21病日までに退院した者は79.8%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第21病日ま

で退院した者は2歳未満の者が80.0%、2歳以上の者は79.5%であり、ほとんど年齢差はみられなかった。

初診から退院までの日数は10-12日が最も多く22.6%であった。15日以内に退院する者は66.3%を占めており、年齢別にも差はみられなかった(表7)。

13. ガンマグロブリン治療

ガンマグロブリンの治療を受けた者は85.8%(男86.2%、女85.2%)を占めていた。

ガンマグロブリン1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く47.9%、次いで900-1099mg/kg39.6%、300-499mg/kg7.9%となっていた。200mg/kg、400mg/kg、1000mg/kg、2000mg/kgちょうど、その他という区分では、2000mg/kgが最も多く45.5%、次いで1000mg/kg38.4%、その他9.4%の順であった。投与期間は1日が最も多く、63.5%、次いで2日27.0%、5日以上7.4%であった。前回に比べて短期間大量投与がさらに増加した(表8)。

ガンマグロブリンの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く79.6%、次いで900-1099mg/kgが13.9%、2100mg/kgが1.8%であった。1000mg/kg、2000mg/kg、その他という区分では、2000mg/kgが最も多く76.4%、次いで1000mg/kg13.2%、その他10.3%の順であった(図7)。

初回ガンマグロブリン使用例で、追加治療ありの割合は、ガンマグロブリン追加投与15.6%、ステロイド投与3.1%、ウリナスタチン投与7.5%、血漿交換0.2%であった。診断別では、いずれも定型例で追加治療ありの割合が高く、2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、血漿交換以外は2歳以上で高かった(表9)。

14. 解熱病日

解熱病日は第7病日が最も多く21.9%であり、第8病日までに解熱した者は69.7%を占めていた。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第8病日までに解熱した者は2歳未満の者が73.6%、2歳以上の者は65.7%であり、2歳以上の者の方が解熱に要する日数が長かった(表10)。

15. 患者紹介の有無

他施設より患者紹介ありの割合は、診療所より紹介53.4%、病院より紹介8.9%で、62.

2%がいずれかの施設より紹介ありであった。診断別には、定型例 62.8%、不定型例 58.5%、容疑例 59.5%で差はみられなかった。年齢別には2歳未満 62.3%、2歳以上 62.1%で年齢差はなかった(表11)。

他施設へ患者紹介ありの割合は、4.9%であった。診断別には、定型例 4.5%、不定型例 6.1%、容疑例 6.6%で、不定型例、容疑例が高かった。年齢別にはほとんど年齢差はなかった(表12)

D. 要約

1. 2年間の報告患者数は19,138人(2003年9,146人、2004年9,992人)であり、1987年以降患者数は着実に増加していた。

2. 最近6年間(2001-2004年)の月別患者数は男女とも、10月が少なく1月が多かった。またすべての月で男が多かった。

3. 0-4歳人口10万対罹患率は、2003年159.2(男179.2、女138.2)、2004年174.0(男196.1、女150.7)であった。2004年の男の罹患率は、史上第2位となった。

4. 性、年齢別罹患率は男女とも9-11か月にピーク(人口10万対 男335.0 女227.2)がみられた。

5. 最近4年間の罹患率の地域差をみると、年によって患者数が多い地域が異なっており、4年間に北海道から九州まで広い地域で患者数の増加がみられた。2004年には関東以西の多くの都道府県に高率地域が集中していた。

6. 診断基準への一致度をみると、定型例83.3%、不定型例3.2%、容疑例13.6%であった。

7. 同胞例、再発例、心障害(急性期)例、心障害(後遺症)例の出現頻度は、それぞれ1.1%、3.7%、13.6%、4.4%であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は0.4%であった。

8. 死亡例は2年間に8人(男4人、女4人)報告され、全体の0.04%を占めていた。年齢別には、5歳以上が0.14%で最も高かった。

9. 心障害(急性期)の内容は、冠動脈の拡大10.31%、瘤1.84%、弁膜病変1.71%、巨大瘤0.44%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.02%であり、弁膜病変以外は男が高く、年齢別には巨大瘤、拡大、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられ、特に巨大瘤は2歳以上

が2歳未満に比べて約1.8倍の出現率であった。

10. 心障害(後遺症)の内容は、冠動脈の拡大2.51%、瘤1.32%、弁膜病変0.47%、巨大瘤0.36%、狭窄0.07%、心筋梗塞0.01%であり、弁膜病変および心筋梗塞以外は男が高く、年齢別には巨大瘤のみ2歳以上で高率にみられた。急性期と同様に2歳以上の巨大瘤の出現率は2歳未満に比べてかなり高かった。

11. 患者の初診日は第4病日が最も多く、2歳未満の若年児がやや早く受診していた。ガンマグロブリンの投与開始病日は、第5病日が最も多く、2歳未満の若年児が早く投与を開始する傾向がみられた。

12. 患者の退院時病日は第13-15病日が最も多かった。初診から退院までの日数は10-12日以内が最も多く、66.3%が15日以内に退院していた。いずれも年齢差はみられなかった。

13. ガンマグロブリンの治療を受けた者は85.8%を占め、1日あたり投与量は2000mg/kgがもっとも多く、1日大量投与が増加していた。総投与量は、2000mg/kgが最も多く76.4%、次いで1000mg/kg13.2%、その他10.3%の順であった。追加治療の状況は、ガンマグロブリン追加投与15.6%、ステロイド投与3.1%、ウリナスタチン投与7.5%、血漿交換0.2%であった。

14. 解熱病日は第7病日が最も多かった。第8病日まで解熱した者は69.7%を占めていた。年齢別には2歳以上の者の方が解熱に日数を要していた。

15. 他施設からの紹介患者は62.2%(診療所53.4%、病院8.9%)であった。診断別、年齢別に差はみられなかった。他施設への紹介患者は4.9%であった。診断別には、不定型例、容疑例で紹介ありの割合が高く、年齢別にはほとんど差はみられなかった。

E. 文献

1) 小児MCLS研究班(班長:神前章雄). 小児MCLS全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要, 1971.

2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975;22(6):306-312.

3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情

報 1975;5(12):22-29.

4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976;34(2):275-283.

5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第5回全国調査結果の速報-. 小児科 1979;20(7):755-757.

6) 川崎病研究班. MCLS(川崎病の多発) -第6回全国調査成績の速報-. 小児科 1981;22(1):53-58.

7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983;24(1):53-58.

8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985;26(9):1049-1053.

9) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987;28(9):1059-1066.

10) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990;31(5):569-576.

11) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992;33(3):309-316.

12) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994;35(1):61-73.

13) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996;37(4):363-383.

14) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998;61(3):406-420.

15) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000;63(1):121-132.

16) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002;65(2):332-342.

17) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004;67(2):313-323.

18) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986;37-51.

19) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎

病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988;18-31.

20) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学-30年間の総括-. 東京:診断と治療社, 2002.

21) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974;54:271-276.

22) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.

23) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988;158(6):1296-1301.

24) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995;95(4):475-479.

25) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995;149:779-783.

26) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996;6(3):148-157.

27) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. Pediatrics 102(6).URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/102/6/e65>.

28) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. Pediatrics 2001;107(3).URL:<http://www.pediatrics.org/cgi/content/full/107/3/e33>.

F. 研究発表

1. 論文発表

中村好一, 屋代真弓, 上原里程, 大木いずみ, 萱場一則, 柳川洋. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.

Nakamura Y, Aso E, Yashiro M, Uehara R, Watanabe M, Tajimi M, Oki I, Ojima T, Yanagawa H, Kawasaki T. Mortality among persons with a history of Kawasaki disease in Japan: Can pediatricians safely discontinue follow-up of children with a history of the disease but without cardiac sequelae? Acta Paediatr 2005; 94(4): 429-434

上原里程, 屋代真弓, 大木いずみ, 尾島俊之, 中村好一, 柳川洋. 川崎病患者の入院期間. 日本小児科学会雑誌 2005; 109(4): 478-483.

大木いずみ, 屋代真弓, 上原里程, 中村好一, 藺部友良, 萱場一則, 柳川洋. 川崎病全国調査に基づく主要症状の出現に関する初期と現在の比較. 日本小児科学会雑誌 2005; 109(4): 484-491.

中村好一. 川崎病患者追跡調査: 利点と問題点. 生存科学 B 2005; 15: 53-68.

Muta H, Ishii M, Egami K, Hayasaka S, Nakamura Y, Yanagawa H, Matsuishi T. Serum sodium levels in patients with Kawasaki disease. Pediatric Cardiology 2005; 26(4): 404-407.

Muta H, Ishii M, Furui J, Nakamura Y, Matsuishi T. Risk factors associated with the need for additional intravenous gamma-globulin therapy for Kawasaki disease. Acta Paediatrica 2006; 95(2): p189-193.

2. 学会発表

中村好一. わが国における急性期川崎病治療の現状. 第108回日本小児科学会学術集会 [イブニングセミナー1 川崎病急性期の治

療最前線] (2005.4.22, 東京)

Muta H, Suda K, Matsuishi T, Ishii M, Nakamura Y. Kawasaki disease: message from Japan to the world, epidemiology to bedside. 第108回日本小児科学会学術集会 [国際シンポジウム1 Present status and problem of Kawasaki disease in Asian countries] (2005.4.22, 東京), 日本小児科学会雑誌 2005; 109(2): 90.

牟田広実, 家村素史, 須田憲治, 松石豊次郎, 石井正浩, 中村好一, 柳川洋. 発症早期に初診しながらも, ガンマグロブリン治療開始が遅くなっていた症例に関する検討. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 28.

屋代真弓, 上原里程, 大木いずみ, 中村好一, 萱場一則, 柳川洋, 川崎富作. 第18回川崎病全国調査成績: 増え続ける川崎病. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 29.

中村好一, 屋代真弓, 上原里程, 大木いずみ, 柳川洋, 川崎富作. 第18回川崎病全国調査における心障害・心後遺症. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 29.

河合邦夫, 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病出生コホート別心後遺症累積罹患率. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 30.

上原里程, 屋代真弓, 大木いずみ, 中村好一, 柳川洋, 川崎富作. 過去6年間に報告された川崎病親子例の疫学特性. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 30.

大木いずみ, 屋代真弓, 上原里程, 中村好一, 萱場一則, 柳川洋, 川崎富作. 川崎病治療におけるガンマグロブリン投与の現状. 第25回日本川崎病研究会 (2005.10.14, 東京), 第25回日本川崎病研究会抄録集 2005: 31.

上原里程，屋代真弓，渡邊至，大木いずみ，尾島俊之，中村好一，柳川洋，川崎富作．川崎病の親子例に関する疫学：川崎病全国調査結果を用いた方法論．第 16 回日本疫学会学術総会(2006.1.23, 名古屋), J Epidemiol 2006 ; 16(1 suppl) : 160.

中村好一，屋代真弓，上原里程，大木いずみ，萱場一則，柳川洋．第 18 回川崎病全国調査結果．第 16 回日本疫学会学術総会(2006.1.24, 名古屋), J Epidemiol 2006 ; 16(1 suppl) : 199.

大木いずみ，屋代真弓，上原里程，中村好一，萱場一則，柳川洋．川崎病におけるガンマグロブリン治療の現状：川崎病全国調査結果より．第 16 回日本疫学会学術総会(2006.1.24, 名古屋), J Epidemiol 2006 ; 16(1 suppl) : 200.

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

〔表1〕 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(—)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	174.0	196.1	150.7	4(0.04)
計	205,207	118,935	86,272	—	—	—	427(0.21)

*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2004年は2003年の推計人口)を用いた。前回調査の2002年は2001年の人口を用いたので今回2002年の人口で修正した。 — 121 —

[表2] 年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2003年				2004年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	19,138	170.9	11,059	8,079	9,146	163.3	5,281	3,865	9,992	178.4	5,778	4,214
0-2か月	382	68.2	231	151	188	67.1	121	67	194	69.3	110	84
3-5か月	1,385	247.3	831	554	698	249.3	413	285	687	245.4	418	269
6-8か月	1,480	264.3	909	571	716	255.7	447	269	764	272.9	462	302
9-11か月	1,582	282.5	963	619	728	260.0	433	295	854	305.0	530	324
12-14か月	1,438	250.3	866	572	690	240.2	435	255	748	260.4	431	317
15-17か月	1,280	222.8	760	520	574	199.8	337	237	706	245.8	423	283
18-20か月	1,151	200.3	696	455	513	178.6	301	212	638	222.1	395	243
21-23か月	1,047	182.2	604	443	538	187.3	315	223	509	177.2	289	220
2歳-	1,759	151.9	975	784	828	143.0	445	383	931	160.8	530	401
2歳6か月-	1,513	130.7	872	641	708	122.3	409	299	805	139.0	463	342
3歳-	1,224	105.9	681	543	607	105.0	329	278	617	106.7	352	265
3歳6か月-	1,080	93.4	582	498	482	83.4	274	208	598	103.5	308	290
4歳-	1,690	72.8	959	731	847	73.0	489	358	843	72.7	470	373
5歳-	999	42.1	500	499	482	40.6	232	250	517	43.5	268	249
6歳-	516	21.7	265	251	253	21.3	125	128	263	22.2	140	123
7歳-	257	10.8	146	111	121	10.2	65	56	136	11.5	81	55
8歳-	157	6.6	82	75	84	7.1	43	41	73	6.1	39	34
9歳-	96	4.4	58	38	44	3.7	30	14	52	4.4	28	24
10歳以上	102	0.8	79	23	45	0.7	38	7	57	0.9	41	16

*罹患率の計算には2003年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2001年				2002年				2003年				2004年			
	患者数			罹患率*												
	総数	男	女													
全国**	8,113	4,588	3,525	138.8	8,839	5,156	3,683	151.9	9,146	5,281	3,865	159.2	9,992	5,778	4,214	174.0
1北海道	286	169	117	120.2	393	217	176	165.1	406	220	186	170.6	363	208	155	152.5
2青森	77	39	38	116.7	87	52	35	131.8	100	54	46	151.5	102	64	38	154.5
3岩手	74	43	31	117.5	73	43	30	115.9	84	51	33	133.3	76	42	34	120.6
4宮城	135	81	54	123.9	158	87	71	145.0	220	114	106	201.8	228	124	104	209.2
5秋田	58	34	24	123.4	61	39	22	129.8	54	30	24	114.9	54	32	22	114.9
6山形	118	58	60	210.7	84	46	38	150.0	86	55	31	153.6	79	51	28	141.1
7福島	141	82	59	136.9	137	77	60	133.0	165	91	74	160.2	162	88	74	157.3
8茨城	167	94	73	116.8	153	89	64	107.0	200	114	86	139.9	222	136	86	155.2
9栃木	125	68	57	131.6	132	72	60	138.9	149	87	62	156.8	164	85	79	172.6
10群馬	177	96	81	184.4	171	107	64	178.1	180	108	72	187.5	168	93	75	175.0
11埼玉	340	199	141	101.8	376	218	158	112.6	426	248	178	127.5	537	303	234	160.8
12千葉	384	200	184	140.7	457	265	192	167.4	490	264	226	179.5	606	352	254	222.0
13東京	781	419	362	163.7	880	524	356	184.5	812	474	338	170.2	917	527	390	192.2
14神奈川	667	380	287	165.1	721	430	291	178.5	714	431	283	176.7	764	431	333	189.1
15新潟	105	71	34	94.6	106	61	45	95.5	104	56	48	93.7	117	69	48	105.4
16富山	44	22	22	86.3	34	19	15	66.7	33	19	14	64.7	48	32	16	94.1
17石川	77	46	31	135.1	108	64	44	189.5	113	55	58	198.2	143	88	55	250.9
18福井	71	39	32	173.2	85	52	33	207.3	91	54	37	222.0	55	35	20	134.1
19山梨	38	16	22	88.4	50	28	22	116.3	55	32	23	127.9	45	20	25	104.7
20長野	183	105	78	171.0	144	79	65	134.6	179	110	69	167.3	220	141	79	205.6
21岐阜	132	74	58	129.4	142	77	65	139.2	160	94	66	156.9	190	106	84	186.3
22静岡	276	148	128	153.3	331	191	140	183.9	273	152	121	151.7	340	194	146	188.9
23愛知	469	262	207	127.8	510	301	209	139.0	550	338	212	149.9	675	384	291	183.9
24三重	146	77	69	164.0	151	99	52	169.7	162	92	70	182.0	168	100	68	188.8
25滋賀	80	41	39	112.7	85	48	37	119.7	90	53	37	126.8	107	69	38	150.7
26京都	197	114	83	166.9	192	113	79	162.7	205	112	93	173.7	232	130	102	196.6
27大阪	523	315	208	109.4	586	352	234	122.6	601	354	247	125.7	670	406	264	140.2
28兵庫	411	239	172	152.8	438	240	198	162.8	436	256	180	162.1	477	266	211	177.3
29奈良	93	43	50	138.8	104	51	53	155.2	98	57	41	146.3	109	71	38	162.7
30和歌山	85	55	30	173.5	84	47	37	171.4	100	64	36	204.1	103	58	45	210.2
31鳥取	18	14	4	64.3	23	9	14	82.1	42	21	21	150.0	43	27	16	153.6
32島根	29	19	10	87.9	33	19	14	100.0	49	24	25	148.5	37	25	12	112.1
33岡山	121	61	60	130.1	129	79	50	138.7	86	57	29	92.5	115	73	42	123.7
34広島	247	143	104	181.6	214	124	90	157.4	246	142	104	180.9	281	155	126	206.6
35山口	88	45	43	133.3	100	59	41	151.5	103	59	44	156.1	72	39	33	109.1
36徳島	42	25	17	120.0	57	37	20	162.9	53	40	13	151.4	71	43	28	202.9
37香川	59	34	25	125.5	68	44	24	144.7	59	42	17	125.5	81	47	34	172.3
38愛媛	97	57	40	144.8	113	61	52	168.7	143	75	68	213.4	111	66	45	165.7
39高知	40	21	19	117.6	45	29	16	132.4	29	12	17	85.3	38	16	22	111.8
40福岡	405	240	165	173.8	423	251	172	181.5	384	222	162	164.8	383	230	153	164.4
41佐賀	58	34	24	131.8	57	34	23	129.5	73	45	28	165.9	51	28	23	115.9
42長崎	75	42	33	104.2	70	35	35	97.2	119	65	54	165.3	96	51	45	133.3
43熊本	135	88	47	157.0	162	99	63	188.4	119	70	49	138.4	173	92	81	201.2
44大分	79	39	40	143.6	85	53	32	154.5	96	50	46	174.5	85	47	38	154.5
45宮崎	58	37	21	103.6	73	46	27	130.4	67	40	27	119.6	54	38	16	96.4
46鹿児島	65	41	24	79.3	98	57	41	119.5	90	55	35	109.8	107	61	46	130.5
47沖縄	37	19	18	44.6	56	32	24	67.5	52	23	29	62.7	51	34	17	61.4
48国外	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	2	1	1	-

*都道府県別罹患率は2000年国勢調査人口を用いて計算した。

**全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2004年は前年の推計人口を使用)。

[表 4] 性別、年齢別死亡例の割合

総 数		総 数	死亡例	(%)
			19,138	8
性別	男	11,059	4	0.04
	女	8,079	4	0.05
初診時年齢別	0-11か月	4,829	1	0.02
	12-23か月	4,916	2	0.04
	2歳-4歳	7,266	2	0.03
	5歳以上	2,127	3	0.14

[表 5] 種類別、性別、年齢別心障害の出現率

		総 数	巨大瘤	瘤	拡大	狭窄	心筋梗塞	弁膜病変	
急性期	総 数		19,138 (100.0)	85 (0.44)	353 (1.84)	1,974 (10.31)	5 (0.03)	4 (0.02)	327 (1.71)
	性別	男	11,059 (100.0)	65 (0.59)	251 (2.27)	1,300 (11.76)	4 (0.04)	3 (0.03)	172 (1.56)
		女	8,079 (100.0)	20 (0.25)	102 (1.26)	674 (8.34)	1 (0.01)	1 (0.01)	155 (1.92)
	年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	31 (0.32)	193 (1.98)	999 (10.25)	3 (0.03)	3 (0.03)	155 (1.59)
		2歳以上	9,393 (100.0)	54 (0.57)	160 (1.70)	975 (10.38)	2 (0.02)	1 (0.01)	172 (1.83)
	後遺症	総 数		19,138 (100.0)	69 (0.36)	252 (1.32)	480 (2.51)	14 (0.07)	2 (0.01)
性別		男	11,059 (100.0)	53 (0.48)	178 (1.61)	332 (3.00)	9 (0.08)	1 (0.01)	45 (0.41)
		女	8,079 (100.0)	16 (0.20)	74 (0.92)	148 (1.83)	5 (0.06)	1 (0.01)	44 (0.54)
年齢別		2歳未満	9,745 (100.0)	26 (0.27)	129 (1.32)	259 (2.66)	9 (0.09)	2 (0.02)	46 (0.47)
		2歳以上	9,393 (100.0)	43 (0.46)	123 (1.31)	221 (2.35)	5 (0.05)	0 —	43 (0.46)

[表 6] 年齢別、初診時およびガンマグロブリン投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
* 初診時	総 数	19,132	100.0	9,743	100.0	9,389	100.0
	第 1 病日	1,140	5.96	728	7.47	412	4.39
	第 2 病日	2,929	15.31	1,704	17.49	1,225	13.05
	第 3 病日	4,249	22.21	2,275	23.35	1,974	21.02
	第 4 病日	4,431	23.16	2,171	22.28	2,260	24.07
	第 5 病日	3,325	17.38	1,605	16.47	1,720	18.32
	第 6 病日	1,618	8.46	694	7.12	924	9.84
	第 7 病日	714	3.73	265	2.72	449	4.78
	第 8 病日	322	1.68	124	1.27	198	2.11
	第 9 病日	148	0.77	60	0.62	88	0.94
	第10病日以上	256	1.34	117	1.20	139	1.48
** ガンマグロブリン投与時	総 数	15,845	100.0	8,082	100.0	7,763	100.0
	第 1 病日	14	0.09	13	0.16	1	0.01
	第 2 病日	190	1.20	124	1.53	66	0.85
	第 3 病日	969	6.12	602	7.45	367	4.73
	第 4 病日	3,205	20.23	1,846	22.84	1,359	17.51
	第 5 病日	5,708	36.02	2,988	36.97	2,720	35.04
	第 6 病日	3,209	20.25	1,456	18.02	1,753	22.58
	第 7 病日	1,459	9.21	590	7.30	869	11.19
	第 8 病日	576	3.64	232	2.87	344	4.43
	第 9 病日	259	1.63	104	1.29	155	2.00
	第10病日以上	256	1.62	127	1.57	129	1.66

*初診時病日不明 6人を除く19,132人を集計した。

**ガンマグロブリン使用例16,413人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明568人を除く15,845人を集計した。

[表 7] 年齢別、退院時病日・初診から退院までの日数の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
* 退院時病日	総数	18,558	100.0	9,461	100.0	9,097	100.0
	第1-9病日	1,189	6.4	680	7.2	509	5.6
	第10-12病日	2,884	15.5	1,543	16.3	1,341	14.7
	第13-15病日	4,339	23.4	2,214	23.4	2,125	23.4
	第16-18病日	3,869	20.8	1,916	20.3	1,953	21.5
	第19-21病日	2,523	13.6	1,216	12.9	1,307	14.4
	第22-24病日	1,344	7.2	673	7.1	671	7.4
	第25-27病日	855	4.6	444	4.7	411	4.5
	第28-30病日	538	2.9	278	2.9	260	2.9
	第31病日以上	1,017	5.5	497	5.3	520	5.7
** 初診から退院までの日数	総数	18,556	100.0	9,461	100.0	9,095	100.0
	1-9日	4,164	22.4	2,109	22.3	2,055	22.6
	10-12日	4,202	22.6	2,173	23.0	2,029	22.3
	13-15日	3,938	21.2	1,984	21.0	1,954	21.5
	16-18日	2,430	13.1	1,215	12.8	1,215	13.4
	19-21日	1,415	7.6	724	7.7	691	7.6
	22-24日	880	4.7	479	5.1	401	4.4
	25-27日	487	2.6	248	2.6	239	2.6
	28-30日	352	1.9	181	1.9	171	1.9
	31日以上	688	3.7	348	3.7	340	3.7

*退院時病日不明および入院なし580人を除く18,558人を集計した。

**初診時病日あるいは退院時病日不明および入院なしを含む582人を除く18,556人を集計した。

[表 8] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数(%)		1日	2日	3日	4日	5日以上
総数*		16,296	100.0	10,356	4,398	190	153	1,199
		(100.0)		(63.5)	(27.0)	(1.2)	(0.9)	(7.4)
	- 299mg/kg	135	1	8	14	12	11	90
	- 499mg/kg	1,286	7.9	16	37	94	60	1,079
	- 699mg/kg	159	1.0	6	19	36	71	27
	- 899mg/kg	61	0.4	11	29	18	0	3
	- 1099mg/kg	6,454	39.6	2,176	4,240	27	11	0
	- 1299mg/kg	94	0.6	72	21	1	0	0
	- 1499mg/kg	18	0.1	18	0	0	0	0
	- 1699mg/kg	34	0.2	34	0	0	0	0
	- 1899mg/kg	145	0.9	143	2	0	0	0
	- 2099mg/kg	7,812	47.9	7,777	33	2	0	0
	2100mg/kg+	98	0.6	95	3	0	0	0
	再掲	200mg/kg	66	0.4	3	5	3	3
400mg/kg		1,041	6.4	10	33	65	36	897
1000mg/kg		6,250	38.4	2,088	4,126	25	11	0
2000mg/kg		7,411	45.5	7,380	29	2	0	0
その他		1,528	9.4	875	205	95	103	250

*ガンマグロブリン使用例16,413人のうち1日投与量、投与日数不明117人を除く16,296人を集計した。

()内は横向きを示す。

[表 7] 年齢別、退院時病日・初診から退院までの日数の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
* 退院時病日	総数	18,558	100.0	9,461	100.0	9,097	100.0
	第1-9病日	1,189	6.4	680	7.2	509	5.6
	第10-12病日	2,884	15.5	1,543	16.3	1,341	14.7
	第13-15病日	4,339	23.4	2,214	23.4	2,125	23.4
	第16-18病日	3,869	20.8	1,916	20.3	1,953	21.5
	第19-21病日	2,523	13.6	1,216	12.9	1,307	14.4
	第22-24病日	1,344	7.2	673	7.1	671	7.4
	第25-27病日	855	4.6	444	4.7	411	4.5
	第28-30病日	538	2.9	278	2.9	260	2.9
	第31病日以上	1,017	5.5	497	5.3	520	5.7
** 初診から退院までの日数	総数	18,556	100.0	9,461	100.0	9,095	100.0
	1-9日	4,164	22.4	2,109	22.3	2,055	22.6
	10-12日	4,202	22.6	2,173	23.0	2,029	22.3
	13-15日	3,938	21.2	1,984	21.0	1,954	21.5
	16-18日	2,430	13.1	1,215	12.8	1,215	13.4
	19-21日	1,415	7.6	724	7.7	691	7.6
	22-24日	880	4.7	479	5.1	401	4.4
	25-27日	487	2.6	248	2.6	239	2.6
	28-30日	352	1.9	181	1.9	171	1.9
	31日以上	688	3.7	348	3.7	340	3.7

*退院時病日不明および入院なし580人を除く18,558人を集計した。

**初診時病日あるいは退院時病日不明および入院なしを含む582人を除く18,556人を集計した。

[表 8] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数(%)		1日	2日	3日	4日	5日以上
総数*		16,296	100.0	10,356	4,398	190	153	1,199
		(100.0)		(63.5)	(27.0)	(1.2)	(0.9)	(7.4)
	- 299mg/kg	135	1	8	14	12	11	90
	- 499mg/kg	1,286	7.9	16	37	94	60	1,079
	- 699mg/kg	159	1.0	6	19	36	71	27
	- 899mg/kg	61	0.4	11	29	18	0	3
	- 1099mg/kg	6,454	39.6	2,176	4,240	27	11	0
	- 1299mg/kg	94	0.6	72	21	1	0	0
	- 1499mg/kg	18	0.1	18	0	0	0	0
	- 1699mg/kg	34	0.2	34	0	0	0	0
	- 1899mg/kg	145	0.9	143	2	0	0	0
	- 2099mg/kg	7,812	47.9	7,777	33	2	0	0
	2100mg/kg+	98	0.6	95	3	0	0	0
再掲	200mg/kg	66	0.4	3	5	3	3	52
	400mg/kg	1,041	6.4	10	33	65	36	897
	1000mg/kg	6,250	38.4	2,088	4,126	25	11	0
	2000mg/kg	7,411	45.5	7,380	29	2	0	0
	その他	1,528	9.4	875	205	95	103	250

*ガンマグロブリン使用例16,413人のうち1日投与量、投与日数不明117人を除く16,296人を集計した。

()内は横向き%を示す。

[表 9] 診断別、年齢別追加治療ありの割合

総数*		総数(%)	ガンマグロブリン追加投与	ステロイド投与	ウリナスタチン投与	血漿交換
		16,413 (100.0)	2,561 (15.6)	508 (3.1)	1,223 (7.5)	28 (0.2)
診断別	定型例	14,563 (100.0)	2,360 (16.2)	476 (3.3)	1,130 (7.8)	26 (0.2)
	不定型例	477 (100.0)	72 (15.1)	8 (1.7)	28 (5.9)	1 (0.2)
	容疑例	1,373 (100.0)	129 (9.4)	24 (1.7)	65 (4.7)	1 (0.1)
年齢別	2歳未満	8,353 (100.0)	1,232 (14.7)	219 (2.6)	582 (7.0)	14 (0.2)
	2歳以上	8,060 (100.0)	1,329 (16.5)	289 (3.6)	641 (8.0)	14 (0.2)

*ガンマグロブリン使用例16,413人を集計した。

[表10] 年齢別、解熱病日の分布

	総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
総数*	18,668	100.0	9,512	100.0	9,156	100.0
第1-4病日	696	3.7	469	4.9	227	2.5
第5病日	1,606	8.6	1,006	10.6	600	6.6
第6病日	3,464	18.6	2,004	21.1	1,460	15.9
第7病日	4,088	21.9	2,135	22.4	1,953	21.3
第8病日	3,160	16.9	1,384	14.6	1,776	19.4
第9病日	2,127	11.4	913	9.6	1,214	13.3
第10病日	1,325	7.1	577	6.1	748	8.2
第11病日	722	3.9	334	3.5	388	4.2
第12病日	462	2.5	196	2.1	266	2.9
第13病日	261	1.4	101	1.1	160	1.7
第14病日	179	1.0	86	0.9	93	1.0
第15-19病日	363	1.9	190	2.0	173	1.9
第20-24病日	132	0.7	72	0.8	60	0.7
第25-29病日	49	0.3	29	0.3	20	0.2
第30病日以上	34	0.2	16	0.2	18	0.2

*解熱病日不明および発熱なし470人を除く18,668人を集計した。

[表 11] 診断別、年齢別他施設より患者紹介の有無

総数		総数 (%)	あり			なし (%)
			計 (%)	診療所 (%)	病院 (%)	
		19,138 (100.0)	11,910 (62.2)	10,213 (53.4)	1,697 (8.9)	7,228 (37.8)
診断別	定型例	15,940 (100.0)	10,014 (62.8)	8,577 (53.8)	1,437 (9.0)	5,926 (37.2)
	不定型例	603 (100.0)	353 (58.5)	288 (47.8)	65 (10.8)	250 (41.5)
	容疑例	2,595 (100.0)	1,543 (59.5)	1,348 (51.9)	195 (7.5)	1,052 (40.5)
年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	6,076 (62.3)	5,239 (53.8)	837 (8.6)	3,669 (37.7)
	2歳以上	9,393 (100.0)	5,836 (62.1)	4,974 (53.0)	862 (9.2)	3,559 (37.9)

[表 12] 診断別、年齢別他施設へ患者紹介の有無

総数		総数 (%)	あり (%)	なし (%)
		19,138 (100.0)	930 (4.9)	18,208 (95.1)
診断別	定型例	15,940 (100.0)	723 (4.5)	15,217 (95.5)
	不定型例	603 (100.0)	37 (6.1)	566 (93.9)
	容疑例	2,595 (100.0)	170 (6.6)	2,425 (93.4)
年齢別	2歳未満	9,745 (100.0)	472 (4.8)	9,273 (95.2)
	2歳以上	9,393 (100.0)	458 (4.9)	8,935 (95.1)

图1 年次别、性别患者数

千人

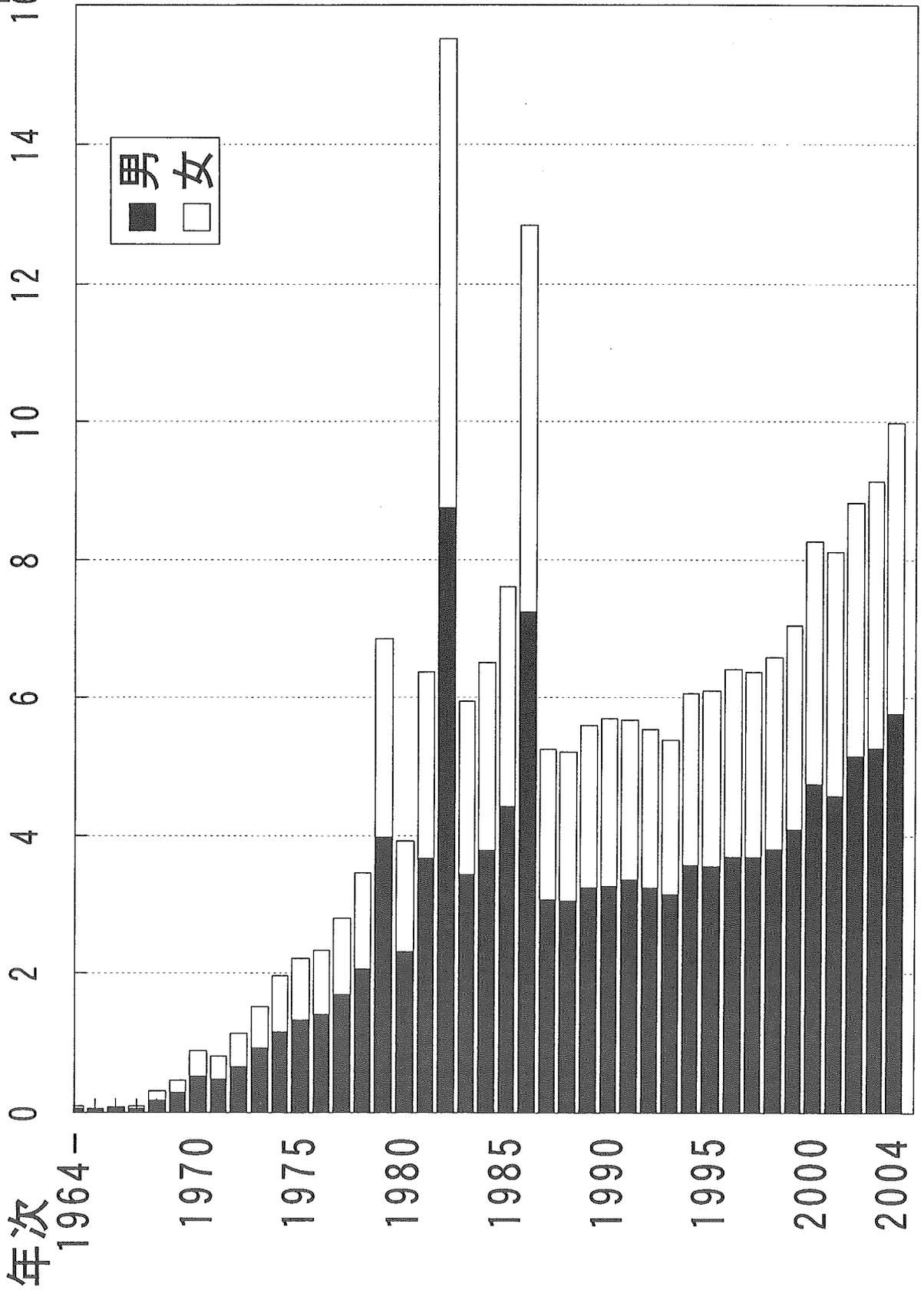


图2 年次別、性別罹患率

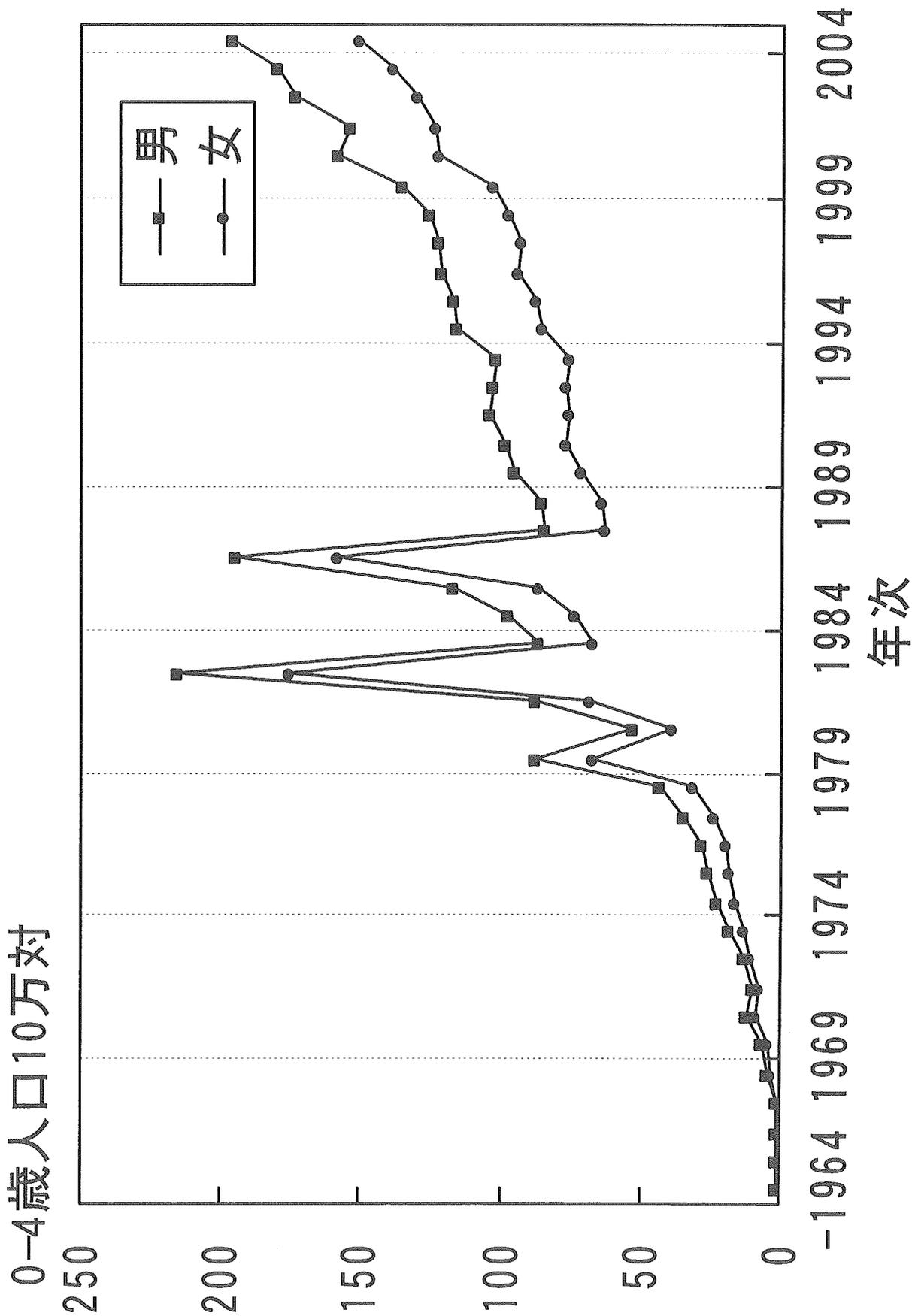


图3 年次別、月別、性別患者数

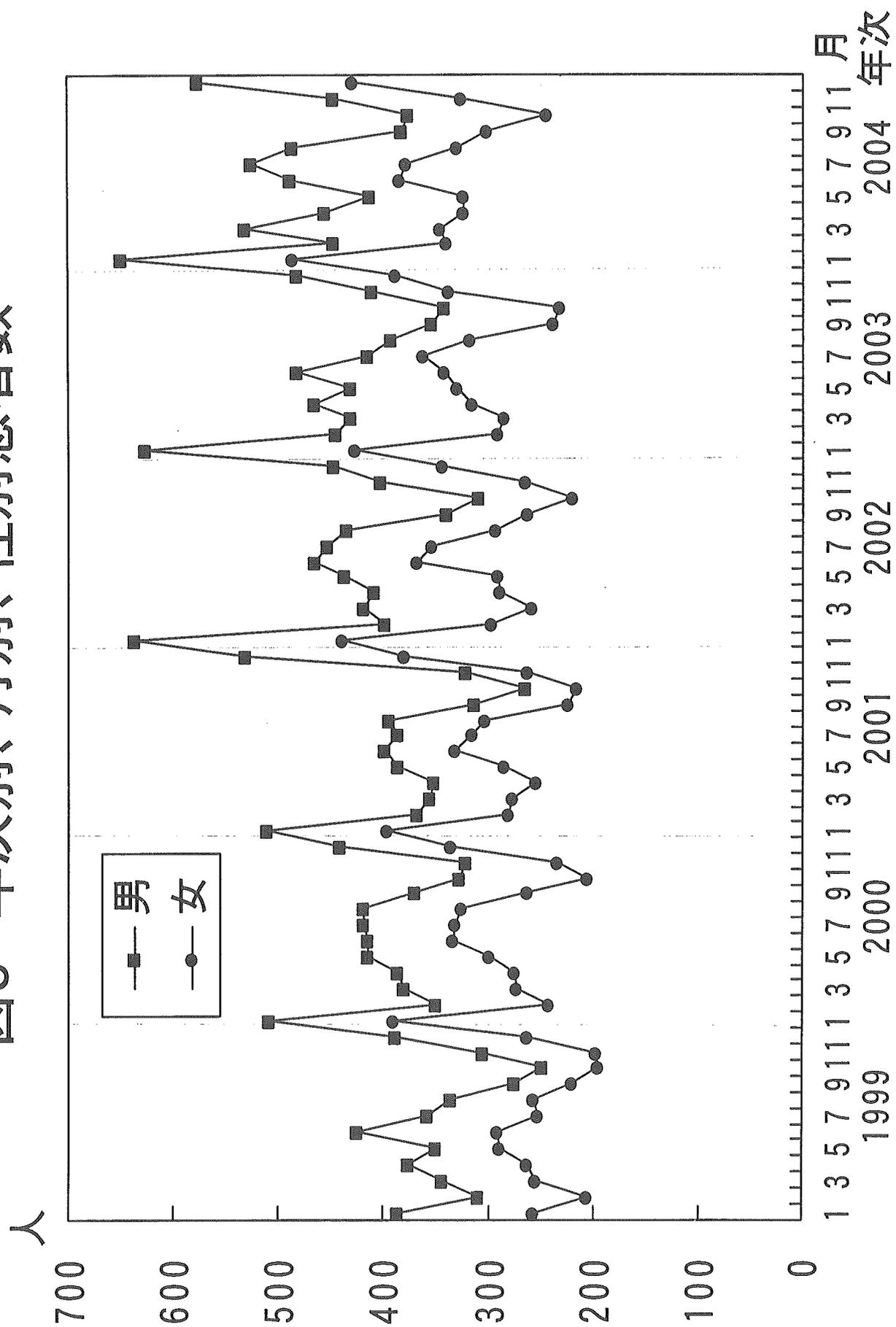


图4 年次別、性別、年齢別罹患率

(2001-02年平均、2003-04年平均)

0-4歳人口10万対

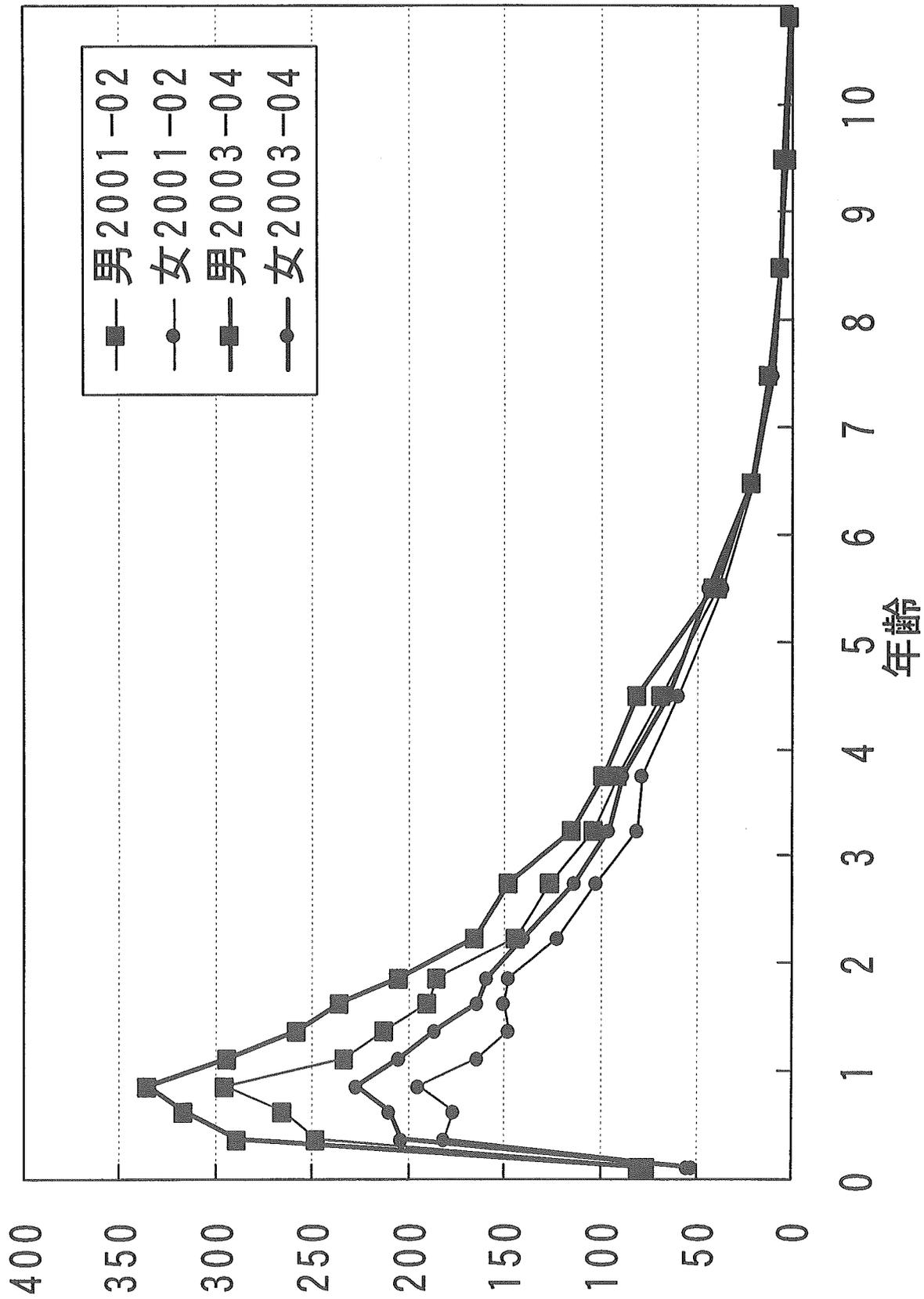


図5 年次別、都道府県別罹患者率

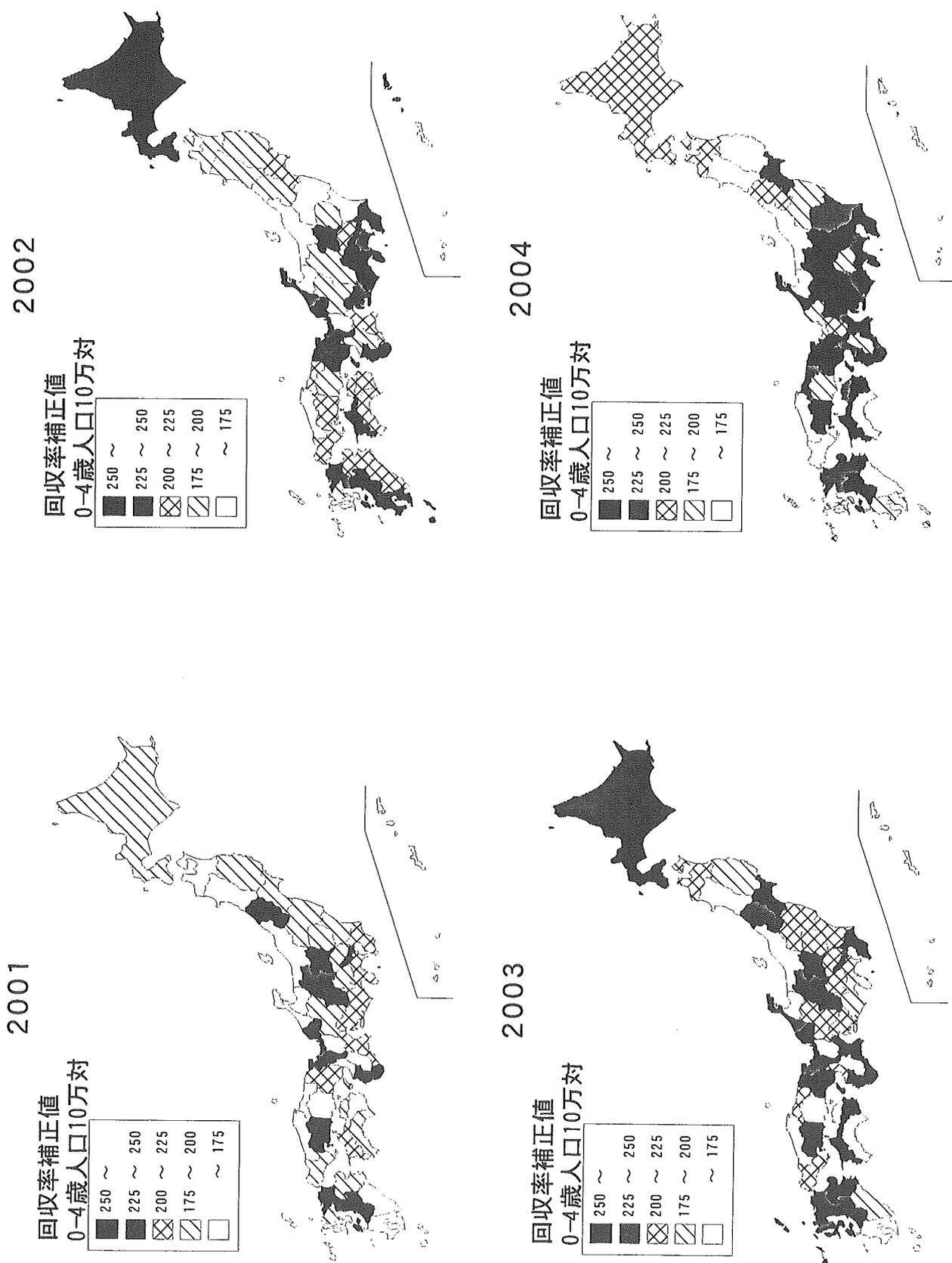


図6 性別、年齢別心障害(急性期、後遺症)の出現率

